



Ritsumeikan University
College of Letters

教 学 の 手 引 き

2005

日 本 文 学 専 攻

文 学 部

Table of Contents

日本文学専攻

I 日本文学専攻 教学紹介

①	教育理念・目標	3
②	1・2回生小集団教育科目	3
③	3・4回生小集団教育科目	4
④	文学史・概論科目	4
⑤	講読演習Ⅰ	4
⑥	特殊講義系専門科目	4
⑦	人文科学総合講座・インスティテュート専門科目	5
⑧	テーマリサーチ型ゼミナール	5
⑨	卒業論文	5
⑩	研究入門学習の具体的方法	5
⑪	卒業論文 執筆の要項（巻末）	(1)

II 履修方法とユニットプログラム 履修モデル

①	科目一覧	8
②	履修方法	10
③	受講登録上の注意	11
④	ユニットプログラム	12
⑤	履修モデル	15

III 学修を進めるにあたって

①	文献資料室と共同研究室	19
②	クラスロッカーの使用方法について	19
③	セミナーハウスの正課用利用の手引き	20
④	学生印刷室の利用について	21
⑤	自主ゼミ援助制度について	22
⑥	「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて	22
⑦	清心館「学生談話室」の利用について	23
⑧	立命館大学人文学会	23
⑨	文学部事務室について	24



日本文学専攻 教学紹介

1 教学理念・目標

日本文学専攻では、日本文学・日本語学の学習・研究を通して、その豊かな成果を理解し、自ら現代的課題に応えることの出来る人間のあり方を見究めることを目的としています。そのための履修の参考に、各種科目の段階的な取得の方法と目標、また内容や性格について解説します。これを参考に各自の学習目標に基づいて、多様な学習内容を自分のものに出来るような計画を立てて下さい。

まず、基幹になる小集団クラス科目が段階的な学習のために用意されています。1回生の「研究入門」から2回生の「基礎講読」「講読演習Ⅰ」、3回生の「講読演習Ⅱ」から4回生の「演習」（卒業論文作成）への一連の科目です。これらは、担当教員の指導・助言のもとに学生相互の自発的活動を交えた共同学習を通じて、日本文学・語学の課題を自主的に学習・研究する力を養おうとするものです。ほかに、作品の成立・影響関係・発展などを展望する「日本文学史」、文学そのものを総合的に探求する「日本文学概論」等があり、また主として教員の専門領域から深く分析・考察する特殊講義系専門科目も設けています。

また、夜間主では3・4回生を合同ゼミとし、「演習Ⅰ・Ⅱ」を連続して受講することによって継続的な学修を可能にしています。ここではとくに日本文化の学習・研究を通して日本の文芸についての理解・研究を深めようとするものです。

さらに、広く人文科学の諸分野にわたる成果や研究法を学ぶものに「人文科学総合講座」の諸科目や総合的・学際的な分野のインスティテュート科目があります。現代的な課題や学際的な視野を包含して考察するのがその特色です。個々の学習目標にあわせてこれらの科目を適宜組み合わせる履修することが望まれます。

日本文学の学習は、小集団教育によって段階的に進められ、さらに深くまた幅のある学習内容を提供する専門科目や学際的・応用的な科目を有機的に組み合わせ、最終的に4回生「演習」の卒業論文又は卒業レポートの作成へと進められます。

履修にあたっては、この段階を通じて何を中心に学習を進めていくか、見通しをつけてその課題をふくらませていくことが必要です。例えば、古典文学を柱とするか、近代文学を中心とするか、日本語（国語）学をメインとするか、その他インスティテュートなどの学際的な内容の学習をめざすかなどの事です。この点は履修モデルを参考にして下さい。そして、最終的には卒業論文または卒業レポートがその仕上げとなります。

日本文学専攻は、2004年度の人文科学発足を機にカリキュラムを大幅に改定しました。主なポイントとしては、文学・文化・日本語学の分野に応じた1回生配当の概論科目の充実、従来では特殊講義で教授していた科目内容の科目名称への反映などを挙げることができます。つまり、従来から展開してきた教学内容を整理し、学生の皆さんに分かり易いように提示したのです。もちろん、内容も今まで以上に充実させるよう計画しています。

この新カリキュラムは2004年度より順次スタートさせていますが、もちろん2003年度以前に入学したみなさんも受講できます。みなさんの学習計画に応じて積極的に履修してください。

以下は、各種科目の内容と目標を示します。

2 1・2回生小集団教育科目

日本文学専攻では、1年生配当の「研究入門」で古典文学研究、2年生配当の「基礎講読」で近代文学研究の基礎を習得した後、「講読演習Ⅰ・Ⅱ」を通じて各自が志向する時代や作品・作家を模索しつつ、卒業論文のテーマを確定していくことになります。入学当初から研究対象にしたい作家や作品が確定している人もいれば、未定の人もいでしょう。いずれにせよ我々教員が最も危惧するのは、ものの見方や考え方が偏狭で、作品解釈に柔軟性が欠けること、他人の意見や解釈に素直に耳を傾けられないことです。また、せっかく優れた研究方法を身につけていても、最適な作家や作品を選ぶことができれば優れた研究とはなり得ません。そこで、研究入門では上代（奈良時代以前）から近世（江戸時代）までに書かれた古典作品や作家を対象に現在の研究動向を踏まえながら、各担当教員の問題意識や研究テーマに即した内容の講義を行うことになります。これまで古典に親しんできた人もそうでない人もいでしょう。ただ、高等学校までの「国語」で行われる古典教材を用いた授業と大学での講義の最も大きな違いは、作品を研究の対象として自分自身の読み（読解）や新見を提示していかなければならないことです。

重要なのは「オリジナル」であること、新しい発見があることで、その意味では自然科学の研究手法や目的と何ら変わりはありません。具体的な方法論は取り上げる作品に応じて担当教員個々が講義の中で示唆していくことになります。

なお、「研究入門」学習の具体的な方法については「10 研究入門学習の具体的方法」を参照してください。

「基礎講読」は、「研究入門」と3回生の「講読演習Ⅱ」を結ぶ2回生段階の小集団教育です。近現代の主要作品をテキストとして、多様な角度から作品・作家・文学史的な位置づけなどについて学習・研究します。「研究入門」で修得した自主的学習態度や専攻の学問領域についての基礎的学力をさらに広め、深めていくことを目標としています。

3 3・4回生小集団教育科目

「講読演習Ⅱ」は、1回生の「研究入門」、2回生の「基礎講読」を踏まえ、研究諸文献や諸資料の検討・批判の作業を発表・討議を通して学習・研究力を深化させる場です。履修者は、時代別・専門別に用意された数種の講読演習科目から選択し、担当教員の指導に基づき作品・作家・言語などの分析を自主的に実践するものです。

「演習」は、卒業論文演習として位置づけられ、今までの専門科目の学習の集約の過程でもあります。単位は「演習」授業そのものについての単位と論文とに分けて出されます。

履修者は、自らが選んだテーマ・課題にもとづき、時代別・専門分野別に分かれて、担当教員の指導を受け、中間発表などのグループ討論などを経て、独自の学習・研究の成果を論文としてまとめるものです。今までの研究成果に自分なりの成果を盛り込むことが要求されます。

なお、いずれの小集団科目も必修または登録必修ですが、全員が途中で投げ出さずに最後まで修学することが大切です。また、卒業論文は必修科目で全員が提出しなければなりません。

昼間主コースの学生は、昼間主の「研究入門」～「演習」を履修しなければなりません。夜間主のフレックス入試で入学した諸君は原則的に昼間主の「研究入門」～「演習」を、夜間主スカラシップ入試・夜間主社会人入試で入学した諸君は夜間主の「研究入門」～「演習Ⅱ」を履修することになっています。

4 文学史・概論科目

これらは日本文学・日本語の基礎的・総合的な学習のために用意されたもので、以上に述べた諸科目を基底で支え、広く専門についての構造的視野を養うための科目群です。「日本文学史Ⅰ～Ⅳ」「日本文学概論Ⅰ・Ⅱ」「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ（国語学概論Ⅰ・Ⅱ）」「日本語文化概論Ⅰ・Ⅱ」「日本文化概論Ⅰ・Ⅱ」などがこれです。いずれもなるべく早い回生のうちに履修しておくことが望まれます。

5 講読演習Ⅰ（日本文学講読・日本文化講読）

時代・領域・作家ごとに適当な作品・資料を選定して開講され、鑑賞・読解・分析の力を養うために、表現・語法、文学観・歴史観の特質などの学習が中心となります。また、狭義の日本文学の学習だけでなくその文化的・社会的な背景との関連も視野に入れた学習内容の授業もあります。「日本文学講読演習Ⅰ」と「日本文化講読演習Ⅰ」があります。

6 特殊講義系専門科目

日本文学・日本語学の研究手法や成果をより深く分析・考察したり、時代状況や出版事情等多様な視点から日本文学を位置づけたり、日本及び諸外国の文化、芸術をも視野に入れて学習する科目です。テーマは教員の専門領域に即したものが多くなります。

7 人文科学総合講座・インスティテュート専門科目

諸分野の総合的・学際的な研究のための科目群です。履修モデルに示したように「言語文化領域」（旧「言語と文化」）、「芸術表象領域」（旧「人間と表現」）分野の科目群は、広い視野に立つ日本文学・日本語の研究の手助けとなります。

8 テーマリサーチ型ゼミナール

テーマリサーチ型ゼミナールは、2003年度からスタートした、文学部が擁する従来の枠組みでは捉えきれない人文学のあらたな分野やテーマ、アプローチを、ゼミ形式で大胆に実践していく、まったく新しい形態のゼミナールです。21世紀の「知」のグローバリゼーションを目指して、人文学に共通する普遍的なテーマ、特定地域を多面的にリサーチしうるテーマ、現在進行形のタイムリーなテーマ、新世紀の社会に直結する実践、実習的テーマなど、現代社会が人文学に求める革新的テーマを設定します。また、テーマリサーチ型ゼミナールでは革新的・斬新なテーマを追求するためにも、常にゼミテーマを見つめ直しています。

3回生のゼミ選択の際には、卒業時（4回生）にどのようなテーマで研究をし、卒業論文執筆をしたいかといった事を考え、ゼミを選択します。その際、自専攻のゼミ、テーマリサーチ型ゼミナールといった選択肢の中で自分に適するゼミを選んでください。

テーマリサーチ型ゼミナールでどのようなテーマのゼミが開講されているのかはシラバスで確認をして頂きたいと思いますが、以下に2005年度、3回生ゼミのいくつかを記しますので是非参考にしてください。

2005年度3回生ゼミテーマ 例)

他者問題と文化理解、文化としての「移動」2、京都から発信する京都文化学、辞書をつくる、ECOTOURISMエコロジーの旅2、

9 卒業論文

卒業論文又は卒業レポートは、小集団教育を軸とした自主的学習の総括であるとともに、4年間における学習の成果を集約するものです。その分野の研究成果を理解したうえで、自分なりの問題意識にたった新たな見解を加えることが求められます（詳細は、本冊子の巻末にある『11卒業論文 執筆の要項』を参照のこと）。なお、昼間主コースでは、4回生の「演習」の単位は授業としての単位とその成果である卒業論文の単位とがそれぞれ別に分けて出されます。場合によっては授業の単位だけ認められる場合もあります。

夜間主は、3・4回生合同の「演習Ⅰ・Ⅱ」を通して、研究・分析した成果を卒業レポートとしてまとめます。

10 研究入門学習の具体的方法

1. どう学ぶか——図書館・文献資料館

日本文学の場合、幸いなことに研究対象のテキストの多くは日本国内にありますので、必要とするものの大部分を実際に取得したり図書館等で閲覧することが可能です。その意味で本の所在を知ること、資料の保管場所を熟知しておくことが研究の初歩かつ最も大切な要件ということになります。その第一歩として、本学、立命館大学の図書館や文献資料教室の使用方を周知し、実際に利用してください。本の検索方法等図書館の利用方法についてはリラックス入門において説明しますので、しっかりと習得してください。また文学部事務室のある清心館の東側の修学館地下には人文系の資料を収めた文献資料室があります。「研究入門」を始めとする授業に必要な資料は、まず始めにこの二ヶ所で検索することになります。文献資料室についても図書館同様、適宜授業時間内に案内することになるでしょう。

2. 学ぶためのサポートー共同研究室

古典文学研究のためには、古典籍にふれたり、草書体の仮名文（くずし字）を解読することが必要になります。また、研究発表や講習発表のための要旨や資料（「レジュメ」と言います）の作成にも時間が費やされます。もちろん個人の努力が不可欠ですが、学術研究上の質問がある場合清心館3階の日本文学共同研究室に常駐する助手及びTA（ティーチングアシスタント）に問い合わせてください。いずれも本学大学院の学生で研究者を目指している先輩です。新年度ガイダンスで紹介します。共同研究室設置の目的や使用方法是別紙にて配布し、授業中にガイダンスをおこないます。

3. 学問の可能性

文学研究を有効に行うために、何らかの目的を設定することは大切です。たとえば外国人に日本語を教授するという目的意識があれば、国語学（日本語学）の文法研究の方法は間違いなく多様化するでしょう。あるいは、これまで文学研究とは無縁と考えられていた分野に文学的手段を援用する可能性を見出していくのも文学部学生の醍醐味です。そのための実験的プログラムの一つに**インターンシップ**があります。これは、企業や自治体と大学が協同で立ち上げた新たな相互学術プログラムで、これまでの人文系学問の枠組みを大きく広げる可能性が期待されています。また、**テーマリサーチゼミ**にも積極的に参加されることを望みます。こうした情報についても授業の中で提供していきますので、積極的に活用し、広い視野と貴重な体験を研究に活かしてください。将来の進路を踏まえての研究手法の開拓は興味深い作業になります。

4. その他

これまでに述べてきた他に、日本文学専攻では以下のような研究教育活動を行っています。

- ① 教員・卒業生・在学生を主会員とする、日本文学（国文学）・日本語学（国語学）・国語教育関係の学術団体である立命館大学日本文学会を組織し、大会・国語教育ゼミナール・談話会（研究会）・日本文学旅行を企画・実施することで、研究・教育レベルの向上に努めています。同会では年2回、機関紙「論究日本文学」を刊行し、研究成果を公開しています。また、学部生を中心に学生部会が運営され、各時代（ジャンル別）に定期的に研究会を行っています。
- ② 専攻ホームページを公開し、上記の「論究日本文学」や専攻教学内容等を発信しています。

この他にも、全国学会や研究会の開催等、学界動向と直結した研究拠点の一つであることを自覚しつつ、教員一同、日常の研究・教育活動を行っています。



履修方法とユニットプログラム 履修モデル

1 科目一覧

日本文学専攻 1・2 回生

	1回生	2回生	3回生	4回生
概 論	日本文学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 日本語文化概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 日本文化概論Ⅰ・Ⅱ(各2)			
文 学 史	日本文学史Ⅰ～Ⅳ(各2)			
特殊講義系		日本語と社会Ⅰ・Ⅱ(各2) 日本語と文化Ⅰ・Ⅱ(各2) 日本文学とアジア(2) 日本文学と知識人(2) 日本文学と女性(2) 日本文学と子ども(2) 日本文学と儀礼・学問Ⅰ・Ⅱ(各2) 日本文学と芸能・美術Ⅰ・Ⅱ(各2) 日本文学の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ(各2) 日本文学と音楽(2) 日本文学とメディア(2) #日本文化特殊講義Ⅰ・Ⅱ(各2)		
講 読		*#日本文学講読演習Ⅰ(4)：通年 *#日本文化講読演習Ⅰ(4)：通年		
小 集 団	*日本文学研究入門(4)：通年	*日本文学基礎講読(4)：通年	#日本文学講読演習Ⅱ(4)：通年	#日本文学演習(4)：通年 *卒業論文(4)：通年

日本文学専攻 3～5 回生

	1回生	2回生	3回生	4回生
概 論	日本文学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	【国語学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)】		
文 学 史	日本文学史Ⅰ～Ⅳ(各2)			
特殊講義		#日本文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ(各2) 【日本文学特殊講義Ⅲ～Ⅵ(各2)】 #日本文化特殊講義Ⅰ～Ⅳ(各2) #国語学特殊講義Ⅰ・Ⅱ(各2)		
講 読		*#日本文学講読演習Ⅰ(4)：通年 【*#日本文学講読Ⅰ・Ⅱ(各2)】 【*#日本文化講読Ⅰ・Ⅱ(各2)】		
小 集 団	*日本文学研究入門(4)：通年	*日本文学基礎講読(4)：通年	#日本文学講読演習Ⅱ(4)：通年	#日本文学演習(4)：通年 *卒業論文(4)：通年

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、日本文学専攻の学生のみが受講できます。
3. #のついた科目は、重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。
5. 【 】のついた科目は、開講していません。

(昼間主コース)日本文学専攻6～8回生、(夜間主コース)日本文学コース6・7回生

	1回生	2回生	3回生	4回生
概 論	〔昼〕日本文学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	【〔夜〕日本文学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)】 【〔昼・夜〕国語学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)】		
文 学 史	【〔夜〕日本文学史Ⅰ・Ⅱ(各2)】	〔昼〕日本文学史Ⅰ～Ⅳ(各2)		
特 殊 講 義		【#〔夜〕日本文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ(各2)】 #〔夜〕日本文化特殊講義Ⅰ～Ⅳ(各2) 【#〔夜〕国語学特殊講義Ⅰ・Ⅱ(各2)】	#〔昼〕日本文学特殊講義Ⅰ～Ⅵ(各2) #〔昼〕国語学特殊講義Ⅰ・Ⅱ(各2)	
講 読		*#〔昼〕日本文学講読演習Ⅰ(4):通年 【*#〔夜〕日本文学講読Ⅰ・Ⅱ(各2)】 【*#〔夜〕日本文化講読Ⅰ・Ⅱ(各2)】		
小集団(昼)	*日本文学研究入門(4):通年	*日本文学基礎講読(4):通年	#日本文学講読演習Ⅱ(4):通年	#日本文学演習(4):通年 *卒業論文(4):通年
小集団(夜)	【*研究入門(日本文学)(4)】:通年	【*基礎講読(日本文学)(4)】:通年	【*演習Ⅰ(日本文学)(4)】:通年	*演習Ⅱ(日本文学)(6):通年

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、日本文学専攻の学生のみが受講できます。
3. #のついた科目は、重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。
5. 【 】のついた科目は、開講していません。
6. 昼・夜カリキュラムで配当回生の異なる場合があります。

2003年度以前に入学された方への2004年度からのカリキュラム改革による注意事項

1. 2004年度から実施される新カリキュラムは、新カリキュラムの配当回生にしたがって、順次開講されます。(1回生配当科目は2004年度開講、2回生配当科目は2005年度開講)
2. 新カリキュラムの開講にしたがって、旧カリキュラムは順次閉講します。(1回生配当科目は2004年度閉講、2回生配当科目は2005年度閉講)
3. 2003年度以前に入学された方も、新カリキュラムは全て受講でき、専門科目として単位認定されます。新カリキュラムの科目も教職課程で利用できますので、履修要項の教職課程でご確認ください。
4. 旧カリキュラムと新カリキュラムで全く科目名が同じ場合は同一科目となりますので、重複受講が可能な科目以外は、再度履修することはできません。

2 履修方法

【1～5回生、昼間主コース6回生以上カリキュラム】

必修科目（卒業するために必ず単位を取得しなければならない科目）

①	日本文学講読演習Ⅰ（2回生以上） 日本文化講読演習Ⅰ（2回生以上）	(2004年度以降入学生) 2科目 8単位必修 (2003年度以前入学生) 1科目 4単位必修
②	日本文学演習（4回生以上） ゼミナールⅡ(テーマリサーチ)*(4・5回生)	4単位選択必修
③	卒業論文（4回生以上）	4単位必修

＊6回生以上は選択不可

登録必修科目（必ず登録・受講しなければならない科目）

④	日本文学概論Ⅰ・Ⅱ（1回生以上）	1科目 2単位選択
⑤	日本語学概論Ⅰ・Ⅱ（1回生以上） 国語学概論Ⅰ・Ⅱ（2回生以上）	1科目 2単位選択
⑥	日本文学史Ⅰ～Ⅳ（1回生以上）	2科目 4単位選択
⑦	日本文学研究入門（1回生のみ）	1科目 4単位
⑧	日本文学基礎講読（2回生のみ）	1科目 4単位
⑨	日本文学講読演習Ⅱ（3回生のみ） ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）（3回生のみ）	1科目 4単位選択

専攻科目以外の登録必修科目

- ・リテラシー入門（教養科目：4単位） 1回生通年
- ・外国文化講読（英語）（人文科学総合講座：4単位） 3回生通年

※1～5回生の社会人学生の皆さんは、②③以外の必修科目、および登録必修科目はありません。
ただし、条件の許す限り、上記の必修・登録必修科目は履修してください。

【夜間主コース6・7回生カリキュラム】

必修科目（卒業するために必ず単位を取得しなければならない科目）

なし

登録必修科目（必ず登録・受講しなければならない科目）

①	研究入門（日本文学）	4単位
②	基礎講読（日本文学）	4単位
③	演習Ⅰ（日本文学）	4単位
④	演習Ⅱ（日本文学）	6単位

※フレックス学生の皆さんの卒業のためのカリキュラムは上記のとおりですが、昼間主コースの必修・登録必修を参照して履修を進めてください。

3 受講登録上の注意

1 回 生

1. 下記の科目は、クラス指定を行っています。クラスは掲示にて発表します。指定されたクラスを本登録してください。

日本文学研究入門、リテラシー入門、外国語科目（第1・第2）

2. その他、1回生配当の登録必修科目を忘れずに登録してください。

2 回 生

1. 下記の科目は、クラス指定を行っています。指定されたクラスの授業コードを受講登録OCR用紙に記入し、本登録してください。

① **英語Ⅶ・Ⅷ** ⇒第1外国語として英語を選択したみなさんが履修します。1回生終了時に希望調査が行われ、4月時にクラスが発表されます。

② **日本文学基礎講読** ⇒指定されたクラスを登録してください。

2. 下記の科目は予備登録科目です。指定された日に予備登録してください（「履修要項」を参照）。予備登録の結果決定したクラスを本登録してください。

① **日本文学講読演習Ⅰ**

② **日本文化講読演習Ⅰ**

3 回 生

1. 下記の科目は予備登録科目です。指定された日に予備登録を行ってください（「履修要項」を参照）。予備登録の結果決定したクラスを本登録してください。

① **日本文学講読演習Ⅱ、ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）***⇒すでに前年度中に予備登録をすませ、許可を受けたクラスを本登録してください。

② **外国文化講読（英語）**

③ **日本文学講読演習Ⅰ**

④ **日本文化講読演習Ⅰ**

4・5回生、昼6～8回生

1. 下記の科目は、本年度の登録で卒業の見込みができる方のみが受講できます。決定したクラスを本登録してください。

① **日本文学演習、ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）***⇒すでに前年度中に予備登録をすませ、許可を受けたクラスを本登録してください。

② **卒業論文** ⇒卒論ゼミと同一のクラスを登録してください。

2. 下記の科目は、本年度の登録で資格取得の見込みができる方のみが受講できます。授業コードを必ず受講登録OCR用紙に記入し、本登録してください。

① **（教）教育実習** ⇒総合演習と同一のクラスを登録してください。7回生以上は、文学部事務室へ個別相談に来てください。

② **（芸）博物館実習**

夜6・7回生

1. 下記の登録必修科目は、許可を受けたクラスを登録してください。

演習Ⅱ（日本文学） ⇒ただしフレックス学生は、**昼6～8回生**の1. に準じてください。なお、「演習Ⅰ」の単位が修得できなかったみなさんは、**金曜6限「日本文学講読演習Ⅱ」**を登録しなおしてください。

2. 下記の科目は、本年度の登録で資格取得の見込みができる方のみが受講できます。授業コードを必ず受講登録OCR用紙に記入し、本登録してください。

① **（教）教育実習** ⇒総合演習と同一のクラスを登録してください。7回生以上は、文学部事務室へ個別相談に来てください。

② **（芸）博物館実習（4回生のみ）**

*テーマリサーチ型ゼミナールは2001年度以降入学者のみが受講できます。

4 ユニットプログラム

文学部では2004年度より、皆さんの学び方の指針として、ユニットプログラムという考え方を提示することとしました。ユニットプログラムとは、**皆さんの所属する専攻・プログラムの特色を活かした将来像を念頭においたうえで**の学び方・大学生生活の過ごし方の指針です。具体的には、専攻・プログラム毎に以下のような3つのユニットを提示します。

① 総合教養形成型ユニット

所属する専攻・プログラムの教学を中心としつつも、文学部の幅広い学問分野を広く修め、それを活かしてどのような将来像を描けるか、を提示します。

② 専門職養成型ユニット

所属する専攻・プログラムの特色を活かした専門的力量や技能などを形成し、それを活かしてどのような将来像を描けるか、を提示します。

③ 研究職養成型ユニット

所属する専攻・プログラムの教学を深く修め、将来、(大学教員などの)研究職を目指す方策を提示します。

また、文学部には10専攻3プログラムがありますので、専攻・プログラムの特性に応じた内容となっています。

そして、これはよく覚えておいて頂きたいのですが、**必ずしもこのユニットの想定する将来像だけが全てではない**、ということです。極端な話をすれば、文学部を卒業して、ロースクールに入って、弁護士になる事だってありえる選択枝なのです(実際、司法試験に合格した文学部卒業生は過去にいますし、2004年度より設置されたロースクールは、法学部卒業生以外にも広く門戸を広げています)。皆さんの意欲次第では、どのような道も開けるでしょう。

では、なぜこのようなユニットプログラムを提示するかという趣旨は、**皆さんが皆さん自身の将来像をよく考えて、それに向かって有意義な(学問やそれ以外も含めた)学生生活を送れるようにしていただきたい**からなのです。目指す将来像が明らかになれば、それに向けた学生生活も充実することでしょう。

もちろん大学生生活を送っていく中で目指したい将来像が変わることはありえますし、それは全く問題ありません。したがって、**ユニットプログラムは一つを選択すると一つのユニットに所属するといったものではありません**。

ここに提示するユニットはあくまでも例示です。これらを参考にして、皆さんが将来を考える一助になるようお願いしております。

以下に、日本文学専攻におけるユニットプログラムの基本的な考え方を提供します。

【日本文学専攻共通の獲得目標】

日本文学専攻は、日本の文学と語学の2分野があり、教員配置と開講科目は次のような構成になっている。

分 野			教員数
日本文学	古典	上代	1
		中古	1
		中世	1
		近世	2
	近代	近代	4
日本語学			1

科目構成は、文学での「入門」・文学史・特殊講義系専門科目その他、文学と語学での概論・基礎講読・講読演習・卒論演習などである。科目数は教員の配置にほぼ対応して置かれている。

こうした点から共通の獲得目標は、近代および古典のうちいずれかの分野と語学を加えた計3分野の学習をとおし、読解力と表現力を身につけ、日本文化の特質面にもふれることのできる学力を身につけることである。できれば、近隣諸国の文学や語学に接して、日本文化を相対的な眼で見る視点も備えてほしい。

1. 総合教養形成型ユニット

これは日本文学の共通獲得目標の上に教養的な分野を加えた内容の修得をめざすものである。

[人材像]

- 公務員一般職・各種事務的な分野など、必ずしも専門領域に特化されない分野で応用の利く人材を養成する。
- 文学・語学のみならず経済・社会・政治的な動向に関心のある人材を養成する。社会人の教養教育志向の者もこの学修型が参考となろう。
- 専攻での学びをより活かした分野としては、出版社での編集者や教育産業なども考えられる。

[将来像]

「私は文学の勉強をしてきたので社会のことは分かりません」といったことでなく、社会・経済・文化・歴史といった広い分野に関心を持ち、具体的な職業についてもそうした面で有用性を発揮できることが期待される。各種の事務担当部門を配転したり、総務的な仕事をしたりする場合にもこれらの知見や興味・関心の基礎が活かしてくる。

[カリキュラム]

かつての教養教育の「人文科学」「社会科学」「自然科学」的分野を念頭に日本文学版的専門分野を学修したい者の像である。例えば人文科学総合講座の興味ある科目をこれに加えることが考えられる。この分野はかなり広範な科目群が用意されていて、文化・社会・数理的な側面の学修が可能である。また、夜間に開講される文化・社会と関連させた専門科目の履修も積極的に行いたい。

これらの分野でのキャリア形成を考えるならば、専攻の学習に加えその分野特有の学習を進めることも重要であろう。例えば、前出の出版社などであれば他学部受講制度を利用して産業社会学部のメディア関連の科目を履修することも有効であろう。教育産業を目指すのであれば、教育人間学専攻の臨床教育の分野も履修してみよう。

また、エクステンションセンターの講座受講など、課外の制度の利用も積極的に考えてみたい。

2. 専門職養成型ユニット

[人材像]

- これは日本文学専攻の専攻科目を中心に履修するもので、文学の読解、その表現面や発信面に長けた人材、また語学の歴史や現代の言語模様に関心をもつ人材を養成する。

[将来像]

従来活発であったが近年は社会的な事情で低迷していた教員（中学校もしくは高等学校の国語教員）、公務員、また広義の教育産業などへの就職が考えられる。また、最近では日本語教師の志望も高まってきている。進路によっては、大学院への進学も考慮すべきであろう。

その他では司書関連の分野も、本ユニットの進路として考えられる。一概に司書と言っても職種によってその性格が全く違う。本学部では、「図書館司書」と「学校図書館司書教諭」の資格が履修できるが、この2つの理念やスキルは異なる。ここで詳しい説明は省くが、図書館司書は公共図書館などにおけるサービスに従事し、司書教諭は学校における図書館を通じて学校教育の充実を目指す『教諭』である。単に、「本が好きだから」この分野を漠然と目指すものがいるが、しっかりとした目的意識をもって履修して欲しい。

同じく、各地にある文学館などに従事するなど、学芸員の分野も本ユニットの進路として考えられる。

[カリキュラム]

こういった進路を選択するにせよ、このユニットでは専攻の専門科目が中心となる。その中で古典文学、近代文学、日本語学といった分野の1つないし2つを中心に学修する。この場合、幅をひろげる意味で夜間の文化・社会との連携を考えた専門科目、文学科の他の専攻科目やまたイノベーション・プログラム科目の履修も考えられる。以下に具体的な事例を述べたい。

教員を目指すのであれば、資格取得のために必要な最低限の単位取得のみならず、教育委員会との協定にもとづく学校ボランティアへの参加や、イノベーション・プログラム（学校教育臨床研修プログラム）の履修などを通して積極的に力を伸ばすべきである。教員採用では、専修免許（学部卒業で得る免許を一種免許、修士課程修了で得る免許を専修免許と言う）の所持を重視するケースも多いため、大学院進学も視野に入れておくべきだろう。

日本語教員であれば、専攻の学習以外にも、イノベーション・プログラム（日本語教育プログラム）の履修など専門知識の習得に努めるべきである。当然、大学院の進学も視野に入れるべきで、本学の大学院では、言語教育情報研究科に日本語教育学プログラムが開設されている。

3. 研究職養成型ユニット

[人材像]

- ・ 広い視野にたちながらも具体的・個別的な分野を掘り下げ、忍耐強く調査・構想をくりかえしながら目的に到達するような人物が適している。

[将来像]

専門分野の研究者を志向する。ただ、現状ではかなり難関となっている。

[カリキュラム]

専門科目を中心とする履修が第一であるが、日本文学・語学分野の研究以外にも外国語や文化・社会的な面に関心をもつことが必要である。何か一つ以上の外国語、歴史や文化の方法論についての科目なども履修することが望ましい。学問の方法が目まぐるしく変化する中で、伝統的な学問方法としての基礎的な文献操作、読解力が必要であると同時に、今日的な問題への関心が必要となるからである。

今日では日本文学・語学分野でもさまざまな研究領域の実務者・研究者が参入してきている。従来の国文学・国語学講座でもそうした学際的な研究の実践者・教育者が求められている。こうした点に留意して、当該分野の基礎的な訓練を怠らないことに加え、「私の専門は古典だから、近代だから…」といった領域認識を超えた学修態度が望まれる。

【最後に】

以上のような履修科目の学修を通して具体的に問題意識を高め、調査の手順を考え、試行錯誤を繰り返しながら問題を解明する方法を体験することは対象が異なっても応用ができる技能や能力を自然に培うことにつながる。そうした意味でも、履修科目の学修に自覚的に取り組んで戴きたい。

5 履修モデル

(教養：教養科目、人文：人文科学総合講座科目、哲・心・その他：各専攻科目)

科目区分	モデル1 日 本 文 学		モデル2 日 本 文 化	
	日本文学専攻科目	その他科目	日本文学専攻科目	その他科目
1 回 生	日本文学研究入門 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 日本文学史Ⅰ～Ⅳ	ジェンダー論（教養） 文学と社会（教養） 映像と表現（教養） 言語学Ⅰ・Ⅱ（人文） アジアの文学（人文）	日本文学研究入門 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 日本文学史Ⅰ～Ⅳ 日本文化概論Ⅰ・Ⅱ	現代の人権（教養） 経済と社会（教養） 科学と技術の歴史（教養） 文学と社会（教養） 東アジアと朝鮮半島（教養）
2 回 生	日本文学基礎講読 日本文学講読演習Ⅰ (2・3回生でバランスよく履修してください) ↓ 日本文学とアジア 日本文学と知識人 日本文学と女性 日本文学と子ども 日本文学と儀礼・学問Ⅰ・Ⅱ 日本文学と芸能・美術Ⅰ・Ⅱ 日本文学の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ 日本文学と音楽 日本文学とメディア	民俗学Ⅰ・Ⅱ（人文） 民間文芸学（人文） 神話学Ⅰ・Ⅱ（人文） 日本文化史Ⅰ・Ⅱ（日史） 仏教美術史（学際） 日本絵画史（学際）	日本文学基礎講読 日本文化講読演習Ⅰ 日本語と文化Ⅰ・Ⅱ 日本文化特殊講義Ⅰ・Ⅱ 日本文学と儀礼・学問Ⅰ・Ⅱ 日本文学と芸能・美術Ⅰ・Ⅱ 日本文学の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ	民俗学Ⅰ・Ⅱ（人文） 民間文芸学（人文） 神話学Ⅰ・Ⅱ（人文） メディア論（人文） 日本演劇論（人文） 中国文学概論Ⅰ・Ⅱ（中文） 文化と文化批判Ⅰ・Ⅱ（学際） 文化とポストコロニアル批評Ⅰ・Ⅱ（学際）
3 回 生	日本文学講読演習Ⅱ	京都学（教養） 比較文学特論Ⅰ・Ⅱ（学際） ジェンダーと文化（学際） ヨーロッパ文学史Ⅰ～Ⅲ（学際） 西洋思想Ⅰ・Ⅱ（人文） 中国哲学史Ⅰ・Ⅱ（中文）	日本文学講読演習Ⅱ	京都学（教養） 戦争の歴史と現在（学際） 宗教と社会（教養） 東洋思想Ⅰ・Ⅱ（人文）
4 回 生	日本文学演習 卒業論文		日本文学演習 卒業論文	

科目区分	モデル3 日 本 語 学	
	日本文学専攻科目	その他科目
1 回 生	日本文学研究入門 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 日本文学史Ⅰ～Ⅳ 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ 日本語文化概論Ⅰ・Ⅱ	論理と思考（教養） 文学と社会（教養） 数理の世界（教養） 言語学Ⅰ・Ⅱ（人文）
2 回 生	日本文学基礎講読 日本文学講読演習Ⅰ 日本語と社会Ⅰ・Ⅱ 日本語と文化Ⅰ・Ⅱ	民俗学Ⅰ・Ⅱ（人文） 民間文芸学（人文） 音声学Ⅰ・Ⅱ（人文） 社会言語学Ⅰ・Ⅱ（人文） 言語コミュニケーション論（人文） 論理学概論Ⅰ・Ⅱ（哲学） 英語学概論（英米） 学習・記憶心理学（心理） 世界の言語（学際）
3 回 生	日本文学講読演習Ⅱ	言語・思考心理学（心理）
4 回 生	日本文学演習 卒業論文	

上表はあくまで履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修しても全ての必要単位を取得できるわけではありません。

また、モデル表にある科目の履修セメスターも必ずしも配当セメスター通りとは限りませんので注意してください。

皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。



学修を進めるにあたって

1 文献資料室と共同研究室

文学部には、教員・学生・院生の研究・学修の場として共同研究室と人文系文献資料室が設けられています。文学部教学の大きな目標である専門的知識・技能の養成や、自主的・集団的な学修・研究の充実のために、この二つの場が大きな役割を果たしています。

〈人文系文献資料室〉

修学館地階にある文献資料室には、主に文学部の学問・研究に関する専門図書、学会や大学が発行する学術雑誌、各種の資料（歴史学関係の史料を含む）、辞典、図録などが集中的に保管されています。それぞれの専攻・コースやインスティテュートに関する専門図書や資料などは、それぞれの専攻が重点をおいてきた専門分野や収書の方針によって特色をもつものとなっていますが、その中でも特に線装本など貴重な図書や、『立命館文学』との交換で寄贈された学術雑誌など、二度と収書することが至難なものについては、別置されています。しかし大部分の図書は開架閲覧方式がとられていて、書庫に入って図書を検索し、閲覧することができます。文献資料室の書庫は下記のとおり、各専攻関係の図書は次のように配置されています。

書庫A 日本文学・日本史・中国文学・東洋史・製本和雑誌（大学・一般）

書庫B キング・サイズなどの大型資料類

書庫C 漢籍・埋蔵文化財・未製本カレント・明大本・和装本など ※書庫Cの図書は閉架請求制です。

書庫D 哲学・心理学・英米文学

書庫E 西洋史・地理学・文化人類学・インスティテュート・地方史・中国雑誌・洋雑誌

研究内容が部分的に重なり、隣接分野となっている専攻間の図書・資料を相互に利用しやすいよう同一書庫に配置しています。それによって広い基礎をもち水準の高い学修研究の発展と、新しい研究課題の発見をが期待できるでしょう。

人文系文献資料室の図書は、全体として専門性の高いものが多く、したがって低回生にとって直接利用できる図書は少なく、広い教養を身につけるための啓蒙書、文学作品、一般の雑誌などについては、中央図書館の利用が望まれます。しかし上回生のレポート作成や卒業論文、修士論文の作成にあたっては、人文系文献資料室に収められた図書の利用が必要となる場合があります。所定の申し込みをすれば、開架閲覧を許していない貴重図書・学術雑誌の閲覧も可能です。

〈専攻・インスティテュート共同研究室〉

専攻院生・学生が教員とともに、専攻の学問研究について自主的な共同研究をおこなう場として10専攻およびインスティテュートそれぞれに共同研究室が設けられています。それぞれ違いがありますが、専攻・インスティテュートの教学にとって基本的な辞典などの図書、また演習・講読などのテーマと直接かかわりのある専門図書などが置かれています。実験実習的な研究教育が重視されている心理学・地理学・日本史学専攻の考古学コースでは、機器・用具類も充実しており、専用の実験・実習室施設もあります。

これら共同研究室は、大学の休業日（土曜日・日曜日・祝日・夏期の一斉休業日、年末年始など）、および授業や卒業論文・修士論文の試問審査など、文学部の教務・事務にかかわって使用制限する場合を除いて、原則として毎日午前9時から午後9時30分まで利用できます。ただし、実際の時間は、専攻によって異なっていますので、各専攻の規定に従ってください。共同研究室の運営や利用の仕方および、日常的な運営については、教員・学生・院生の三者で協議することにしており、相互に円滑で節度のある使用を心がけねばなりません。

2 クラスロッカーの使用法について

(1) クラスロッカーについて

クラスロッカーは、研究入門、基礎講読、講読演習、演習などのクラス単位で必要なものを、一時的に保管しておくものです。例えば、研究入門の講義時に欠席者用レジュメなどを保管したりするために利用するものです。したがって、個人用の荷物を保管するようなことは禁止をしています。また、基本的に、カギをしめないで使用していただきますので、紛失しては困るものなどは収納しないようにしてください。

(2) 使用の手順

1. 文学部事務室へ、クラス単位であらかじめ利用の申請し、使用するロッカーの場所を決めます。

申請は随時受け付けますので、必要がある場合は、文学部事務室で手続きして下さい。

※オリエンテーション期間の「オリター懇談会」で選出する「クラス代表者」が、クラスを代表して手続きをするようにしてください。

2. 使用できる期間内は、必ず指定のロッカーを使用し、クラス単位で管理してください。
3. 使用期限が来れば、クラス単位で荷物の撤収を行ってください。

(3) 注意事項

利用上以下の点に注意して下さい。

- ①クラスロッカーは、事前の申請に基づいてクラス番号を付番し、クラス指定しますので、確認して下さい。
クラスロッカーは1クラス1ロッカーではありません。
- ②ロッカーは整理整頓に心がけて下さい。複数クラスで利用をお願いした場合、必ず物品のクラス間違いがないようにして下さい。
- ③物置ではありませんから、ロッカーに保管するのにふさわしくないものは入れないで下さい。また、施錠しませんので、貴重品など紛失しては困るものは入れないで下さい。
- ④万一紛失・盗難にあった場合、大学は責任を負いませんので注意して下さい。
- ⑤サークルなどの団体が無断で使用した場合は、速やかに撤去します。
- ⑥クラスロッカーの利用期限は、翌年3月15日（休日の場合はその前日）までです。ロッカーにはいつている物はすべて各クラスの責任で移動して下さい。翌年3月16日以降は、文学部事務室の責任で物品の廃棄をおこないます。

③ セミナーハウスの正課利用の手引き

(1) セミナーハウスについて

立命館大学では、正課・課外活動などで活用して、多様な学生生活を通じて得られる「学びと成長」を支援する施設として、セミナーハウスがあります。ここでは簡単に紹介します。ぜひ各クラスで積極的に利用してください。

なお、今年の4月から6月にかけて、新入生のクラスとして合宿をする場合は、別途の手続きになりますので、(5)の説明を参照してください。

1. 衣笠セミナーハウス（立命館大学より徒歩5分）

- ①衣笠キャンパスに隣接したアカデメイア立命21の中にあり、洋室の会議室と宿泊室および和室の会議室兼宿泊室を擁し、宿泊できる人数は最大で150名の収容力を持つ施設です。
- ②国際平和ミュージアムも併設していますので、見学を兼ねてご利用ください。（併設施設は学生証提示で無料）

2. エポック立命21（びわこ・くさつキャンパス内）

- ①BKCにもセミナーハウスがあります。

(2) 施設の利用料金

正課で利用する場合は、宿泊料は無料となります。なお、正課以外でも担当教員の承認印を得ればクラス単位で利用する時は小集団クラス援助金で利用できます。

(3) 施設の予約方法

利用にあたってはまず利用したいセミナーハウスに電話にて予約をしてください。利用日の3カ月前から1週間前（なるべく2週間前）までに、直接電話で利用期間・人数等を申請し、予約をしてください。（退館時に次回予約日の予約もできます）予約後の手続き等は、衣笠学生センター（研心館2階）に必要な書類がありますので、ご確認ください。

衣笠セミナーハウス：075-465-8110 エポック立命21：077-561-2700

(4) その他

正課以外で利用する場合は、宿泊料が必要です。詳しくは衣笠学生センターにてご相談ください。

(5) 新入生クラス合宿の手続きについて

4月から6月にかけては、クラス、ゼミが集中的に利用する可能性があるため、あらかじめ、学部枠が設けられています。新入生クラスが、クラス合宿を行いたい場合は、この「学部枠」内で優先的に予約することになります。この期間にクラス合宿を行いたいクラスの代表者は、文学部事務室学生係にご相談ください。

4 学生印刷室の利用について

(1) 利用方法の説明

各小集団クラスでは、正課授業時に利用するレジュメ印刷の際に、学生印刷室に設置されている輪転機を利用することができます。輪転機は原稿1枚につき、10部以上の印刷をするときに利用できます。なお、原稿を作成する際にはB4もしくはA4にしてください。

- ①文学部事務室前にある「小集団クラス印刷申請書」に必要事項を記載し文学部事務室窓口申請して下さい。
(事前に小集団クラス担当者許可印が必要です。)
- ②記入された「小集団クラス印刷申請書」と「学生証」を窓口提出して下さい。窓口設置されている受付台帳に記載した後、学生証と引き換えに「印刷機の鍵」をお渡しします。
- ③輪転機は、清心館1階 学生談話室東北角の学生印刷室内にあります。
- ④印刷用紙は、文学部事務室内東側にあります。申請した枚数をもって、印刷をして下さい。(印刷に失敗する場合がありますので、若干余分に持って行ってください。学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。)
- ⑤輪転機の利用方法は、学生印刷室内の掲示を確認してください。
- ⑥輪転機の使用が終了したら、速やかに「鍵」を事務室窓口まで返却して下さい。引き換えに学生証を返却します。(未使用の印刷用紙は、事務室内東側の位置に戻してください。)

(2) 「学生印刷室」の利用時間帯

1. 印刷は以下の時間帯で使用するようして下さい。終了時間には必ず印刷が終了するようして下さい。

授業日の 9:00~21:30

※窓口時間等は変更する場合がありますので、掲示等注意して下さい。

(3) 利用にあたっての諸注意

- ①鍵は他人に貸し出さないで下さい。また、他人の学生証でカギを貸すことはできません。
- ②「学生印刷室」は印刷物を散らかさないよう、整理整頓に心がけてください。
- ③輪転機が故障したら、機械を無理に操作せずに、事務室まで連絡してください。
- ④不正使用は絶対に行わないで下さい。もし不正利用が判明した場合、所属クラスの輪転機利用禁止、利用代請求などを行います。
- ⑤学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。不正に利用したことが発見された場合は、賠償していただきます。

5 自主ゼミ援助制度について

(1) 自主ゼミ制度について

授業で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、学部内のメンバーで組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して、施設貸与や資料作成の費用を援助する制度です。

(2) 参加資格

文学部生・文学研究科生の登録が可能です。他学部・聴講生・科目等履修生・卒業生は登録できません。

(3) 援助内容

1. 経済援助 生協で利用できるコピーカード 1,000円分
2. 施設貸与援助 学習会・研究会のための施設貸与および自治会輪転機使用（用紙は各自で準備）
3. 自主ゼミ用掲示板の使用 清心館1Fにある自主ゼミ用掲示板を使用することができます。

(4) 受付期間・受付方法

登録の受付は、年2回、4月と10月に文学部事務室または文学部自治会（清心館1F）にて行います。

登録手続きの詳細については、別途掲示にてお知らせします。（4月上旬および9月中旬に掲示予定です）

(5) その他

自主ゼミ活動についてはセメスター単位で登録を受け付けます。また、活動終了時に、活動実績・成果を報告してもらいます。

6 「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて

(1) 「小集団教育推進補助費」の目的とその適用の範囲について

各小集団クラスにおける学生の自発的・集団的学習、研究活動を行うために必要な以下の目的について補助を行います。「小集団教育補助費」では下記の例のような使用が可能です。その執行については、各小集団において会計担当者を決めて文学部事務室に届け出て下さい。会計担当者には「クラス資料費伝票」を交付しますので、会計担当者が責任をもって管理・執行するようにしてください。

- ①生協発行のコピーカード（1回の購入限度額5,000円、1クラス15,000円まで）
- ②クラス共通のフロッピーディスク（1クラス2,500円まで）
- ③クラス教材用VTRテープ（1クラス2,500円まで）

※その他会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」等を参照してください。

(2) 補助額

1クラスにつき年額15,000円です。

(3) 適用期間

毎年4月伝票交付日～翌年2月末まで利用できます。

(4) 使用の流れについて

各クラスで、クラス代表者とともに、「クラス会計」担当者2名を選出してください。

（1回生は、オリエンテーション期間の「オリター懇談会」において選出してください。）



クラス責任者は、事務室が主催する説明会に参加してください。

（説明は、文学部自治会が招集するクラス代表者会議（仮称）を通じて行います。連絡があった場合には、必ず参加するようにしてください。なお、その際には、印鑑を持参の上参加してください。）



「伝票」を交付します。

本学生協（中川会館地下1階）にて物品等の購入ができます。使用方法是、会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」および「伝票」の裏書を参照してください。1クラス年間15,000円まで使用できます。使用期間は「伝票」交付日から翌年2月末までになります。伝票をなくした場合は、事務室に申し出てください。



「伝票」を返還します。

使用期限（翌年2月末日）を満了した場合は3月15日（休日の場合はその前日）までに、全額（15,000円）を使用した場合は、直ちに「伝票」を事務室に返還してください。

7 清心館「学生談話室」の利用について

清心館の一階に「学生談話室」があります。これは、学生の交流・休憩、クラス活動、自習等を行うための施設であり、文学部が「学生談話室利用申し合わせ」に基づいて文学部自治会と共同管理しつつ、日常的な運営を学生の自治に委ねています。利用者が相互に譲り合って、気持ちよく利用できるように努めてください。

1. 「学生談話室」は全面禁煙です。
2. 紙コップや空き缶などゴミは必ずゴミ箱へ捨てるようにしてください。
3. 椅子や机などを勝手に動かしたり、汚損したりしないようにしてください。
4. 「学生談話室」を利用して行事や情宣活動を行うことは許可制です。利用を希望する団体は、文学部自治会に相談の上、文学部事務室の許可を得てください。なお、許可された場合も「学生談話室利用申し合わせ」を遵守して利用するようにしてください。

8 立命館大学人文学会

立命館大学人文学会は、立命館大学文学部における学問研究の発展・深化と普及を目的として、文学部の教員・院生・学生によって構成された学会です。

当学会の活動は、1934（昭和9）年『立命館文學』の創刊に始まっています。この『立命館文學』は、斯界の評価も高く、月刊にて定期的に発刊されていましたが、戦争の拡大するなか、1940（昭和15）年10月には、ついに第60号の刊行をもって一時中断のやむなきにいたりました。しかし戦後間もない混乱期の1947（昭和22）年7月には、早くも『立命館文學』第61号の刊行を再開し、今日にいたっています。

1952（昭和27）年1月に、学会は立命館大学「人文学会」として正式に発足。会則を制定しました。1969（昭和44）年には、新たに学生部会が発足し、更に充実した学会に発展しました。

『立命館文學』の発行は、2005（平成17）年3月現在で、第589号に及んでいます。

人文学会の主要な活動は、『立命館文學』の刊行と教員・学生の研究・学修の助成におかれています。『立命館文學』に掲載された研究論文は、専任教員の論文をはじめ、学部学生の卒業論文のタイトルや院生の修士論文の概要、及び院生のおこなった書評や学界動向の紹介、さらには卒業生や非常勤講師の研究論文も数多く掲載されています。発表された研究論文の内容は、わが国の各分野の学界において高い評価をうけているものが多く、『立命館文學』の学会誌としての水準の高さを示しています。

『立命館文學』に掲載されている研究論文や、修士論文・卒業論文・博士論文（概要紹介）・書評・学会動向などは、教員の講義・演習に生かされ、また学生のグループ研究・個人研究の参考に供されていますが、今後ますますひろく活用されることを期待しています。

「人文学会」はまた院生・学生の自主的研究の助成をも目的としており、そのための事業として、学生部会による研究誌の発行、あるいは公開講演会の開催なども行なっています。学生諸君は人文学会委員を選出し、それを通じて学会運営に参加することとなっています。みなさんが学会活動に深い関心を持ち、積極的に参加されることをつよく望みます。

9 文学部事務室について

(1) 文学部事務室とは

文学部事務室は、文学部の学生のみなさんが必要な手続きをおこなったり、必要な提出物を提出する等、事務手続を行う窓口であるほか、試験や授業に関する連絡を行ったり、履修・進路・留学などの相談に応じる窓口でもあります。なお、電話での対応は、基本的に行っておりませんので、直接の来室、または、メールによる相談をお願いします。

- ◎ 学生印刷室にある輪転機を使用したいとき（学生証が必要です）
- ◎ 各専攻・プログラムの共同研究室を利用したいとき（学生証が必要です）
- ◎ 学割・証明書の発行（可能な限り、証明書自動発行機で購入してください。）
- ◎ 休学・復学・退学や追試験、受講登録、教育実習登録など、各種の手続き書類の配布・受付
- ◎ その他

文学部事務室を通じて、立命館大学が提供するさまざまなプログラムやサービス、施設などを活用し、積極的・主体的な学修・学生生活をおくってください。

(2) 窓口時間

※授業のない期間については、時期によって窓口時間が変わりますので、よく確認してください。

【開講期間中の窓口時間】 9：00～11：30 および 12：30～18：30

2005年度より窓口時間帯が18：30までとなります。ただし、夜を中心に学修する学生、社会人学生で上記時間内に来室する事が難しい場合は、18：30～21：30に来室してください。

なお、17：00以降は学芸員課程についての対応はできませんので注意してください。

(3) 文学部事務室ホームページ

【立命館大学文学部事務室ホームページ】 URL <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/jimu/>

文学部事務室では、主な情報をホームページで提供していますので、ご覧になってください。

（提供情報の一例）定期試験時間割、休講情報、教職課程・学芸員課程・学部独自インターンシップなどの諸連絡、その他

また、文学部事務室では、メーリングリストによる各種案内や休講情報も、随時行っています。1回生オリエンテーションでの「書類交付ガイダンス」でみなさんに配布する「RAINBOW ID通知書」のIDを活用して、情報入手してください。

一、卒業論文の位置

卒業論文は、研究入門から基礎講読を経て演習にいたる一連の学習で身につけた知識と方法を活用し、各人の具体的な研究テーマを自分の力で掘り下げ究明して、その成果をまとめるものである。従来の研究成果をよく踏まえたうえで、批判的な態度でこれに新しい知見を加えることが期待される。

二、論述の態度

自分の考えを他の人に伝えるために寄りどころとなる的確な根拠を提示し、論理的な文章展開で読み手を導くように分かりやすく説明することが大切である。

書誌や先行研究、あるいは研究史などそれらの成果も簡潔に紹介し、同時にその問題点をあげ、それと自己の考えとを対照させて論述するのもよい。この時、特に大切なのは他人の説や用例と自分が考えたり見つけたそれとの区別が明確に分かるように記述することである。

ことさら難しい術語を使ったり、奇をてらった文体や展開は避けるのが望ましい。新しい用語や特有の表現などがどうしても必要な場合は、自分なりの定義や説明を注等で示しておく。

三、研究の方法

今までの学習で体験した方法を応用すればよい。

要するに、作品・資料の熟読、関連する先行研究からの批判的摂取、これらを通じての自分なりの問題の発見、そしてその解決法を探り、論を立てる。そして、それらの分析・考察を理解してもらえよう論理的な文章でまとめることが重要である。

作品・資料の理解・把握については、現代的視点や今の自分の立場も大事だが、その時代・その作者の考えや感覚を理解する方向で行うことが肝要である。そのうえで、自らの論考を練り上げていくよう努めることが求められる。

また、関連する研究ばかり集めて振り回され、肝心の直接的な作品・資料の読みがおろそかになることは避けるべきである。直接的な対象を熟読玩味し、関連する研究によってこれを補い、またさまざまな解釈のあることを知り、批判的な態度で自分の見方や考えを深めていくのがよい。

四、具体的な諸点

(1) 異本・諸版の問題

文学・語学の研究資料には、異本や複数の版の問題がつきものである。原典に戻る方向で処理するか異本を積極的に活用するかは、研究の目的によって異なるが、その存在には注意が必要である。諸版については『国書総目録』『古典籍総合目録』などで調べたり、異本関係を把握できる資料（例えば『源氏物語大成』など）を活用したり、必要ならば自分で作ったりするとよい。本文批判が研究の基礎を作る。

(2) 注釈書の問題

日本文学、とくに古典には古くから多くの注釈書が作られている。近代のものは比較的少ないが、各種研究論文にはこれを巡る諸説にふれるものも多い。現代に刊行されたものを含めて、これらにひととおり目を通しておくことが大切である。古いものでも研究のヒントを得ることが多いし、研究史の把握にもなる。最近、各種の古注釈が活字で刊行されている。近代については、各種の研究叢書・論文がこの役割を果たすだろう。

(3) 従来研究成果の概観

まず、『日本古典文学大辞典』（岩波書店）『日本近代文学大事典』（講談社）や各種文学事典を手がかりにするとともに、『日本古典文学研究史大辞典』、日本文学全体を通した『日本文学研究資料叢書』（有精堂）や『研究資料日本古典文学 同・現代日本文学』（明治書院）、『国語国文研究史大成』（三省堂）『日本近代文学大系』（角川書店）などが参考になる。「国文学」「解釈と鑑賞」などの雑誌や各種の講座物もある。

(4) 関連研究を探す

関連する内容の研究を探す必要性は高い。図書館のCD-ROM端末にある、『雑誌記事索引』はオンラインで情報が簡単に入手できる。日本文学（国文学）では、『国文学年鑑』（至文堂）『国文学文献』（朋文出版）、日本語学（国語学）では『国語年鑑』（秀英出版）『日本語研究文献目録』（フロップー版、同）などがある。また、『国文学論説資料集』『日本語学論説資料集』は手に入りにくい論文も縮刷されていて便利である。

この他に、関連論文の注などを活用して見つけることも出来る。ただ、目に触れにくいところにも参考にすべき貴重な研究資料があるので細心な注意が必要。

(5) オリジナルな研究資料の作成

各人にあつた研究材料の活かし方を工夫することが大切である。

古典・近代を問わず、作家の年譜を作ったり、研究論文リストを作ったり、諸説・異説を集めたもの、また自分の考えをまとめたものを個別に準備するとよい。

これらは散逸しないように、適宜に加筆・修正が可能なように、順を変えたり並べたりして比較・対照できるように、関連事項がすぐ参照できるように、論文執筆の時に傍らにおいて直接利用できるように、ノートやカードの工夫をするとよい。

五、執筆要領と注意事項

(1) 構成について(例として)

目次 (頁をかえて始める)

＊目次とそれぞれのページを示す。

序論(「序」「はじめに」など)

＊自分の論の目的、視点、関連する研究の現況と自己の論との関係などを述べる。

第一章 (章と章との間は一、二行あける)

一(節) …… (節と節との間は一行あけてもよい)

二(節) ……

・

・

第二章

一

二

・

・

結論(「結」「おわりに」など)

＊自分の論をもう一度整理する。

補注(参考資料、補説など)

引用・参考文献一覧

(2)「注」について

他人の説による箇所やその引用の部分、出典その他補足説明的な箇所につける。本文中の余白右側、注の対象となる部分の末尾近辺に「(注) 1、2、……」と記し、脚注の形式とする(立命館大学論文用紙の下有空欄に記す)。長いものは補注として論文末に一括する。補注は全体を二字下げて書く。

③ 引用について

- 1、短いものは本文中に「」を入れて引用する。
- 2、長いものは、改行し、全体を二字下げて引用する。その書き出しは、三字下げる。

例

[illegible]

- 3、詩歌など原典の引用も、二字下げて書く。
- 4、引用文の途中を省略する場合は、（中略）とする。
- 5、長文引用の後の本文書き出しは、前の文章と続く場合には一字下げなくてよい。
- 6、引用文は原文のままの表記とする。明らかに誤りとわかる場所もそのままとし、右傍らに「ママ」と書いておく。原文にない傍点、傍線を加えた場合は「傍点は筆者による」などのように断る。
- 7、引用文には、その末尾に注を付けて、著者、書名、雑誌名、引用頁などを明記する。

(4) ページ

ページは、本文のみにうち、二〇〇字分をページとし、原則として各ページの上部、折り目の傍らにつける。全体を綴じて見開きにしたときに左右ページの上両端につけられていることになる。

(5) 書名・雑誌名

書名は『』に、雑誌名は「」に入れて表記する。（表記の仕方は種々ある。論文中統一することが望まれる。指導教員の指示に従うこと。）引用に際しては、

著者名『書名』出版社、発行年月、必要なら所在(章・節など)

著者名「論文名」(「所収雑誌名」) 巻号、発行年月、必要なら引用頁の体裁で掲げる。

(6) 用字、仮名遣いなど

誤字・脱字・略字のないように注意する。用字・仮名遣いなどは、常用漢字・現代仮名遣いなど現行のものを原則とする。特殊な表現や用語は、避けるのが望ましい。

(7) その他

- 1、手書きの場合、用紙・表紙は所定のものを用いること（原稿用紙は「立命館大学論文用紙」（B4縦書き）——生協にて販売——を使用。表紙は、B5の黒色2穴とじのもの。原稿用紙を半分に折って表紙を付け、糸でしっかりと綴じたものとする）。タテ書きを原則とするが、事情によってはヨコ書きも可とする。その体裁はタテ書きの場合に準じた形とする。ワードプロセッサによってもよい。
- 2、提出期限に遅れないこと。完成原稿として、オリジナル論文一冊、そのコピー一冊の計二冊を提出する。
- 3、枚数は四〇〇字詰め原稿用紙にして三〇枚以上、五〇枚を原則とする。これには、補注・参考文献一覧・図表の綴じ込みなどは含まない。
- 4、ワードプロセッサを使用するときは、「備考」に記した書式に従うこと。
- 5、図表などは原稿用紙に直接書いても、別紙に書いて張り付けてもよい。小さい図表は本文内の頁に加えてもよい。
- 6、口頭試問は、一月下旬から二月中旬に行われる。提出論文の別コピーを持参すること。
- 7、論文は卒業式当日に返却する。

その他、細部は指導教員の指示に従うこと。

〔備考〕

日本文学専攻 卒業論文用 ワードプロ書式（A4用紙・表紙はA4黒色のもの）

- 1 A4用紙一枚につき一行四〇字×一五行（一ページにつき六〇〇字、原則として縦置・縦書、書式の詳細に関しては指導教員の指示を受けること）。
- 2 四〇〇字原稿用紙三〇枚以上五〇枚は一二〇〇字～二〇〇〇字であるから、ワードプロ書式（六〇〇字）にすると、二〇ページ～三四ページ程度となる。
- 3 手書き同様に、原稿用紙に印字したものも認める。
- 4 注は論文あるいは各章の末尾にまとめるか、それぞれのページの下部に脚注として記すかする。
- 5 完成物として提出メ切時間までに二部提出すること。メ切時間を過ぎた場合は一切受理しない。特にワード、パソコンによる作成の場合、機器の故障によって提出できなかったなどは一切理由にならないので、余裕を持って完成させること。

「卒業論文」の提出について

◆「2005年度卒業論文」の提出締切期限は、

12月20日(火)午後5時とします。＜時間厳守＞

- ※ 提出の際は、学生証が必要です。
- ※ 必ず本人が持参してください。事前許可なしで代理提出はできません。
- ※ 締切時間は厳守してください。遅延提出は一切認められません。
- ※ 卒業論文の提出の形式が整っていないと受理できないケースもありますので、万端に準備してください。
- ※ **単なる体調不良や交通機関の延着・機器等の故障・勤務の都合等の理由での提出遅延は、認められません。**余裕を持って提出できるように心がけてください。
- ※ 予測不可能かつ緊急の事態などで、どうしても締め切り前の提出が困難になった場合、**自分で判断せず、必ず事前に文学部事務室に一報**してください。事前連絡・相談があったケースに関してのみ、本人申請書・証明書類を提出の上、教授会の審議を受けた上で提出の延期を許可する場合があります。（全てが許可されるとは限りません。）事前連絡と必要な書類手続の両方が満たされていることが大前提です。事前の連絡がない場合は、事後の対応が不可能になります。

◇「卒業論文」の提出前に、「**卒業論文題目届**」を文学部事務室に提出することが必要です。「卒業論文題目届」の提出締め切り期限は、

10月6日(木)午後5時とします。

◆論文審査の主査・副査の発表は、**10月下旬から11月上旬**とします。各専攻・プログラム共同研究室掲示板に掲示します。

◇**口頭試問の日程は、1月下旬から2月中旬**に行います。個人別の日時は、1月中旬頃に各専攻・プログラム共同研究室掲示板に掲示します。

- ※ 卒業旅行の日程は、口頭試問を避けてください。

◆卒業論文の形式は、各専攻・プログラムにより異なりますが、以下の形式は共通ですので、必ず守ってください。

- ① 卒業論文は、添付資料なども含め、必ず**2部**提出してください。
- ② 表紙に論題、氏名、学生証番号などを記載してください。

2005年度卒業論文 「○○ (論題)」 学生証番号、氏名

- ③ 論題は、事務室に提出した「卒業論文題目届」と全く同一でなければなりません。卒業論文作成中に論題の変更が必要となれば、主査・副査の変更がないか必ず指導教員に確認した上で、事務室で論題変更の手続きを行ってください。テーマ自体が変わるなど、大きな変更は認められません。
- ④ 主査・副査の名前を記した紙（シールになっています）を、おもて表紙の裏側に貼り付けてください（2部とも）。「主査・副査シール」は文学部事務室で配付しています。主査・副査は10月下旬から11月上旬に共同研究室的掲示板に掲示されていますので、早めに確認してください。
- ⑤ 体裁については各専攻の「教学の手引き」に従って作成してください。（専攻によっては体裁の変更指示もあるため、各専攻掲示を確認してください。）
体裁については、各専攻で点検します。したがって、窓口・提出会場で受け付けられた論文

でも、専攻で体裁上の不備が発見された場合は、口頭試問の時点でF評価となることがありますので、注意してください。

2005年度後期 卒業論文に関する日程

日 程	内 容
10月6日(木)午後5時まで	「卒業論文題目届」事務室提出締め切り
10月下旬～11月上旬	主査・副査発表（共同研究室掲示板）
11月28日(月)～12月5日(月)	題目変更期間
12月13日(火)	卒業論文受付開始
12月20日(火)午後5時まで	卒業論文提出締め切り ＜時間厳守＞
1月中旬頃	口頭試問日程発表（共同研究室掲示板）
1月下旬～2月中旬	口頭試問実施

◎5回生以上の学生で、前期に卒業論文を提出する方の日程

日 程	内 容
4月28日(木)午後5時まで	「卒業論文題目届」事務室提出締め切り
7月1日(金)～7月8日(金)	題目変更期間
7月13日(水)	卒業論文受付開始
7月20日(水)午後5時まで	卒業論文提出締め切り ＜時間厳守＞
7月下旬～8月	口頭試問はこの間に実施します。日程は7月下旬に各専攻・プログラムの共同研究室掲示板に掲示します。

テーマリサーチ型ゼミナールで卒業論文（非卒業論文形式含む）を提出するには

テーマリサーチ型ゼミナール受講学生の皆さんは、従来のような卒業論文提出の形態（卒論形式）もあり得ますが、クラスによっては、そこで制作する卒業論文は従来の専攻のような論文形態によらず、共同で成果物（本の出版等）を仕上げてこれを卒業論文とすることができるという形態（非卒論形式）も認められています。提出期日・提出先・提出方法については、卒論形式か非卒論形式かによって取り扱いが異なります。必ずクラス内で担当教員に、いずれの形式なのかを確認してから作成してください。※卒論形式・非卒論形式いずれの場合も「卒業論文・卒業制作テーマ届」（←卒論形式・非卒論形式共通）は全員提出してください。

「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り：10月6日（木）午後5時まで

テーマ届変更期間：11月28日（月）～12月5日（月）

体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数・書式・用紙の大きさなどはクラス担当者の指示に従うこと
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、氏名を必ず記載すること
	その他注意	1. 学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類は該当しない。 2. 主査・副査の発表・口頭試問日程等は担当者の指示に従ってください 3. 提出締め切り等の詳細は「テーマリサーチ型ゼミナール・卒論形式で提出する方」を参照してください。
非卒論形式で制作の場合	文書・表紙体裁	体裁については全てクラス担当者の指示に従うこと
	その他注意	1. 制作物（成果物）の提出が不要の場合であっても卒業論文・卒業制作テーマ届を所定の期日までに文学部事務室へ提出してください。 2. 制作物（成果物）の提出が必要な場合、提出期日・提出先・提出方法などは担当教員の指示に従ってください。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮）」を実施することがあります。実施日については、担当教員の指示に従ってください。

テーマリサーチ型ゼミナール「卒論形式」で提出をされる方の提出について

提出に際する諸注意は基本的に前述の「卒業論文」の提出についてに従ってください。ただし、以下点が異なりますので留意してください。

- ①TRSのばあい、「卒業論文題目届」ではなく、「卒業論文・卒業制作テーマ届」の提出が必要です。
- ②論文審査の主査・副査の発表日程は授業内にて指示します。
- ③口頭試問の日程は基本的に1月下旬～2月中旬に行う予定ですが、個人別の日時等は授業内にてお知らせしますので、クラス担当教員の指示に従ってください。文学部共同研究室掲示板に掲示することもあります。

日 程	内 容
10月6日（木）午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
10月下旬～11月上旬	主査・副査発表（担当教員による指示）
11月28日（月）～12月5日（月）	題目変更期間
12月13日（火）	卒業論文受付開始
12月20日（火）午後5時まで	卒業論文提出締め切り ＜時間厳守＞
1月中旬頃	口頭試問日程発表（担当教員による指示）
1月下旬～2月中旬	口頭試問実施

◎5回生以上の学生で、前期に卒業論文を提出する方の日程

日 程	内 容
4月28日(木) 午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
7月1日(金)～7月8日(金)	題目変更期間
7月13日(水)	卒業論文受付開始
7月20日(水)午後5時まで	卒業論文提出締め切り <時間厳守>
7月下旬～8月	口頭試問はこの間に実施します。日程は各担当教員に確認してください。